

[第5回]

レポート
多職種
連携

株式会社アイセイ薬局 国母店（山梨県）
腎臓病研修会などを通じ
医師・コメディカルとの
関係を強化
県内第一号の健康サポート薬局、
老人会でのセミナー開催など地域に貢献

「健康サポート薬局」の幟が
はためく国母店



- 株式会社アイセイ薬局 国母店
- 所在地 山梨県甲府市国母8-28-18
 - 店長/管理薬剤師 望月一司氏
 - 薬剤師数 正社員1人、パート1人、派遣1人
 - 処方せん枚数 1200〜1400枚（月間）

医師とのヒューマンネットワークをベースに、在宅医療に取り組んでいるのが、山梨県甲府市にあるアイセイ薬局国母店です。「山梨慢性腎臓病研修会」など医師が主催する勉強会に積極的に参加、医師をはじめコメディカル、介護職との連携を深めることで、在宅医療の質の向上に努めています。

今年2月、健康サポート薬局の基準に適合したとして、国母店の届出を山梨県が受理しました。県内では第一号の健康サポート薬局で、アイセイ薬局としては2店目となりました。同薬局では、老人会などでのセミナー開催や認知症患者の早期発見に取り組み、地域医療に貢献しています。

毎週、施設に入居する患者さんへ往診同行

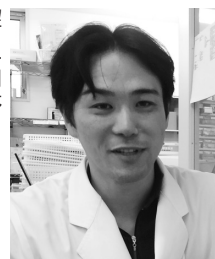
山梨県甲府市にあるアイセイ薬局国母店を訪れると、店頭立つ一本の幟が目飛び込んできます。幟には、「健康サポート薬局」の文言が大書され、風にたなびいています。今年2月3日、国母店の健康サポート薬局の届出を、山梨県が受理しました。これは、山梨県で初めて健康サポート薬局が誕生した瞬間でした。アイセイ薬局としても、茨城県水戸市の本町店に続く2店目となりました。

国母店は、メインの処方元が近隣の消化器外科医院ですが、その集中率は65%。他医療機関の処方せんを数多く応需し、そのかわり、在宅医療にも積極的に参画しています。現在では30〜40人の患者さんをサポートしています。そのうち、施設に入居する患者さんが7割程度と多くを占めていますが、そうした患者さんを医師が訪問する際には、管理薬剤師の望月一司氏が同行。望月氏は「週に1回は必ず、往診同行しています」と話します。

同薬局の多職種連携の取り組みは、同氏を除いては語れません。むしろ、同氏を中心に多職種連携が進められていると言っても、過言ではないでしょう。

同薬局に対する在宅訪問の要請はケアマネジャーではなく、ほとんどが医師からのものであり、望月氏が「95%が医師からです」と指摘するように、医師とのヒューマンネットワークをベースに、在

望月一司氏



宅医療が行われています。もう少し平たく言えば、医師が主催する複数の勉強会に望月氏が積極的に参加、医師との人間関係を作り上げることで在宅医療を広げ、多職種連携を深めていると換言できます。

「腎臓病は薬剤師職能を発揮しやすい領域」

同氏が参加している勉強会は多数に上ります。山梨慢性腎臓病対策協議会が主催している「山梨慢性腎臓病研修会」をはじめ、「摂食・嚥下サポート やまなし」、「NPO法人慢性疾患診療支援システム研究会」などのほか、「甲府在宅ネットワーク」の勉強会にも毎月、出席しています。

中でも望月氏は「山梨慢性腎臓病研修会」の活動に、特別の意味を見出しています。というのも、慢性腎臓病の対策には薬剤師など多くの専門職の連携が欠かせないからです。高血圧や糖尿病に次いで頻度の高い疾病にもかかわらず、早期発見・早期治療ができず、末期腎不全に至る患者さんが少なくありません。その防止のため、医療関係者の組織的な取り組みが今、強く求められています。

望月氏は、「薬剤師職能を発揮しやすい領域」と話しつつ、連携の重要性を次のように指摘します。

「病院、診療所、薬局が、患者さんの腎臓の情報を共有することが何より大切です。パラメーターを通じて、医師と薬剤師は話し合えますので、その過程で情報の共有が可能と考えています」

一方、望月氏は「摂食・嚥下サポート やまなし」の運営委員会のメンバーとしても活動しています。同会は名称の通り、摂食・嚥下障害を持つ高齢者を支援する専門職の集まりですので、歯科医や看護師、理学療法士、言語聴覚士などが多く参画しています。薬剤師は、望月氏を含めて2人しか運営に関わっていないそうですが、多職種連携をスムーズに進めるために、1カ月おきに交互に開かれる運営委員会と勉強会に、可能なかぎり参加しています。

さらに、県内の医療機関が診療情報を共有する「NPO法人慢性疾患診療支援システム研究会」の活動にも関与しています。山梨大学医学部附属病院や内科・耳鼻科・眼科などの診療所、さらに薬局などが参画、インターネットを利用した医療連携システムを運営しています。実際に、国母店を利用している患者さ

んの中にも、同システムによって情報が共有されている糖尿病の方が数人おられるそうです。同会は毎月、第三水曜日に研究会を開催。医師はじめコメディカル、緑内障の患者会代表なども参加し、患者さんを中心としたシームレスな診療ネットワークの構築を目指しています。

また、甲府市の在宅医療に関わる専門職の集い、「甲府在宅ネットワーク」にも参加しています。同ネットでも勉強会が毎月開かれており、グループワーク形式で、症例検討などが行われています。

認知症患者の早期発見に取り組む

以上のような研究会に、望月氏が関与することでコメディカルとの関係も拡大、最近では薬に関する勉強会の開催を、求められることも多くなってきました。ある特別養護老人ホームからは2カ月に1回、看護師向けに勉強会の依頼を受けているほか、年に1回、ケアマネジャーや介護福祉士など全職員を対象にしたセミナーの講師にも、望月氏は立っています。

3月からは、知り合いの看護師からの依頼で、職場の異なる看護師15人が集まった勉強会がスタート、その講師も務めるようになりました。

冒頭に触れたように、国母店は県内初の「健康サポート薬局」として、2月から新たなスタートを切りました。48薬効群のOTC薬のほかダイエット食品や黒酢などの健康食品などを揃え、地域住民や患者さんを迎えています。

「老人会などに出向き、セミナーの開催や、認知症患者さんの早期発見に取り組んでいます。認知症が疑われる場合には地域包括支援センターへ連絡し、サポートをお願いしています」（望月氏）

地域に根ざした活動を続ける国母店。望月氏は「私の持っている知識や情報は全て、若い薬剤師と共有していきたい」と話し、すでに、次世代を担う薬剤師の養成に、目を向け始めています。



親しみやすい店内の雰囲気が特徴